

2章 「科学する心を育てる」実践事例

子どもたちの「科学する心」は、どのような場面で育っていくのでしょうか。

自然の中で驚き、感動する。遊びの中で疑問を持ったり工夫したりする。人とのかわりを通して好奇心を膨らませていく。こうしたさまざまな場面で、子どもたちの「科学する心」が育っていきます。

第2章では、各園が捉えた「科学する心を育てる実践事例」を次の3つのパートに分けて紹介します。

A. 自然の中に「科学する心」がある B. 遊びの中に「科学する心」がある C. 人との関わりの中に「科学する心」がある

A. 自然の中に「科学する心」がある

A-1. 「あっ うごいた わぁーうまれた(チャボ)」 福地北部保育園(愛知県刈谷市) <9月>

ねらい ひなの誕生を通して生命の大切さを知る

場 面 : チャボの卵からひよこが生まれる様子を見ている時

事 例

■9月3日



子どもの言動・状況	保育者の思い	保育者の行動
<p>①チャボの卵を親がつつき、中からも、ひなが出ようとする姿をクラスの皆と一緒に見ている。心配そうな表情で、卵が動いたり、殻が少しづつ割れる度に「あっ」と声を出し、ジーと見ている。途中、他児よりガンバレコールがありA子も同様に応援する。</p> <p>④ガンバレコールが止み、「目が見えた」「あっまた動いた」等、生まれるまでの様子を他児同様につぶやきながら、ジーと見る。「わぁー生まれた!」とA子他児喜ぶ。「あんな狭い卵の中に入ってたじゃないみたいだね」とA子。</p> <p>⑦「殻はお母さんが食べてるよホラ!」とA子。「わかった!殻があるとけがをするから食べてあげるんだよ」「そうだね」と子ども同士の会話「濡れてた羽がちょっと乾いてきたよ」「本当だ、大きくなつたみたいだね」と変化を逃さず興味深々にみている。</p>	<p>②真剣に見て心より応援しているなあ。でも親に刺激を与えてしまうかもしれない。</p> <p>⑤こうして生まれるんだすごいなあ。今まで生まれたひよこの殻は見当たらないが殻はどうなるのだろう。子どもたちに投げかけてみよう。</p> <p>⑧思いや観察力に感心する。</p>	<p>③「お母さんも、ひよこもがんばってるね、あまり大きな声を出すとびっくりしちゃうから、そーっと見ていようね」</p> <p>⑥「うまれたね、よかったね」と共感し「殻ってどうなるのかな?」</p> <p>⑨子どもの言葉や思いに共感し見守る。</p>



考 察

今までいくつもの卵から、ひながうまれたのは知っているが、ふ化の瞬間を見たのは初めてであった。A子を含め、みんな真剣に様子を見ており、無事、生まれてくるよう応援したり、少しずつの変化に驚きが見られた。生まれた時は本当に嬉しそうに「かわいいね」とつぶやくA子。「ひなが生まれやすいようにお母さんが卵をつついて、お手伝いしてあげたんだね」と今日の様子を見て、お母さんの役割にも気づいた様子であった。タイミングよく貴重な感動体験ができた。卵のふ化という生命の誕生を目のあたりにした感動は子どもたちの心の中に熱く、しっかりと響いたと思う。自分たちで餌やりをし、世話をしているだけにひなの誕生は特別なものとなり、何ものにもかえがたい体験となった。

ポイント

卵からヒナがかえる瞬間を、子どもたちがぐき付けになって見ている様子が印象的です。生命の尊さは、子どもたちが、ただその瞬間に立ち会っただけでなく、日頃からチャボに心を配り、かわいがるという体験によってより深く培われていくのではないかと思います。子どもたちが心を動かさず感動体験をたくさん体験するようにという心配り感じられます。